

第 1 回大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会 会議録

日 時	令和5年10月6日(金) 14:00 ~ 16:25		
場 所	大田市役所 4階大講堂		
出席者	委 員：16名／17名 (欠席委員：原直幸委員) 事務局：武田教育長、森教育部長、縄総務課長、 渡邊総務課長補佐、清水学校施設係長、清水学校再編係副主任 川津学校教育課長、俵学校教育課主査 山根学事・魅力化推進室長、矢田山村留学センター長		
傍聴人	11名	報道機関	5社
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		
<p>1. 開会</p> <p>2. 武田教育長挨拶</p> <p>3. 委員紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ●委嘱状交付(進行：森教育部長) ・机上に配付(手渡しはせず) <p>4. 講話</p> <p>公立大学法人 島根県立大学 人間文化学部保育教育学科 教授 齊藤 一弥先生</p> <p>5. 委員長、副委員長の選出(検討委員会設置要綱第5条第2項により)</p> <p>教育長が指名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長：加藤寿朗委員(島根大学 大学院教育学研究科 教授) ・副委員長：大屋 誠委員(国立松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 教授) <p>6. 議事(議長：加藤委員長)</p> <p>(1) 確認事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検討委員会設置の趣旨について 2) 大田市学校のあり方に関する実施計画の見直しについて 3) 今後のスケジュール(案)について 4) 大田市立小・中学校の再編素案について 5) 大田市の状況に関する資料について <p>⇒事務局(縄総務課長)より資料に沿って説明</p> <p>(2) 意見交換</p> <p>7. その他</p> <p>次回開催予定日の確認</p> <p>8. 閉会</p>			

確認事項に係る質疑応答	
発言者	内 容
委員長	委員の皆様のご意見、お考えはこの後の意見交換の場で発言いただくこととし、ここでは資料の中でわかりにくかった点などの質疑の場にする。
委員	資料4-1に、令和5年度当初教員未配置の学校があると記載があるが、未配置というのはどのような状況のことを言うのか。
武田教育長	未配置というのは、全国的な教員のなり手不足により、児童数・生徒数によって12名教員を学校に配置しないといけないにも関わらず11名しか配置ができないため、申し訳ないがその状態で新年度をスタートさせるという学校が、今年度当初で5校6名ということ。
委員	未配置のことについて、教育長からなり手不足で配置が難しいためそのまま授業がスタートするということがあったが、配置基準がある中で、配置ができないためそのままということは許されるのか。代わりにどういった方を配置されているのだろうか。不足されている方に対して正規の先生は足りないが、非正規の先生で代用できるとか、必要な配置数を充足させるためにそのような対応はあると思うが、学びの場を保証するという中でそういう話が出てくると、今の説明だけでは自分の中で引っかかるので教えていただきたい。
武田教育長	<p>先程の返答は教員未配置の意味だったのでそのように答えたが、12名必要な中で11名しか配置できず1名欠員の状態でスタートするとなった時、大田市の場合は管理職が受け持つとか、時間割の空き時間を調整して空いている教員を入れ替わり立ち代わり配置するとか、学校の中で工夫をしていかなければならない状況。今年度は全ての学校で配置が終わったので、現在の段階で未配置がなくなったが、通常であれば正規の方を入れなければならない。</p> <p>教員がいないために、本来そのライセンスを持っていない方に仮のライセンスを出して資格を与えている。採用は県教委で、そのようにライセンスを与えてもらった方を配置する場合もある。もしくは、常勤の方がいないので希望を出していない方にも半日でもいいからと声掛けをして、非常勤講師という形の方もいる。ただ、非常勤講師は一人の枠に一人配置されるわけではないので、1ある仕事の中で0.5しか勤めないとか、この教科しか持たないという制限がある。そうなると、常勤の教員に1.3やってもらわないといけないような現実があり、非常に苦しいところ。働き方改革と逆行しているような苦しさが現場に生まれている。</p> <p>先程の発言を訂正する。現段階ではまだ教員の未配置が1校ある。</p>
委員	<p>2点ほど確認したいことがある。当初の計画に比べて劣化が激しいため急遽計画を変更、また、大田小学校ではかなり劣化が激しいということだが、40年程度でここまで劣化するというのはあまりない。そうなると今の計画のまま再編統合を行うと、今は大丈夫に見えてもかなり劣化が進んでいる可能性もある。予防保全などを入れて維持しながら統合による校舎の新設等を進めていくなど、そういった検討は進めているのか。私はまだ現状を見ていないし、委員の皆様はどういう状況かわかっているのか。次回でも、今の学校の現状を見せていただくと分かりやすいというのが1点。</p> <p>2点目に、学校の統合の形がいくつかあると資料に示されているが、この3案の中には小中一貫校とか統合のあり方、多様な学びの学校という考え方が入っているのかを教えてください。</p>
縄課長	1点目の予防ということだが、先程の資料の中に五十猛小学校や鳥井小学校の校舎は非常に厳しく、早急に隣校、方向としては静間小学校との統合を見据えて地元とも協

	<p>議を進めている。大田小学校でもそうだが、建て替えを想定しながらも、外壁のモルタルの悪い部分を叩いて落として、そこを覆うということで、校舎をできる限り安全を保つために維持していくという取り組みを行っている。現在鳥井小学校、五十猛小学校についても作業を進めている。先程行程表を見てもらったとおり、再編統合は非常に長いスパンで考えている。市内の小中学校で最も若い校舎でも平成8年建ということで、概ね30年くらい経つ校舎。現在大丈夫であっても、再編を進めていく中では校舎も1年ずつ年を取っていくので、再編統合案は予防保全も行いながら進めていく。</p> <p>また、校舎の状況について、後ほど大田市の状況に関する資料で説明する予定にしていたが、その資料の一つに厳しい学校の現状を掲載している。こうした現状の学校が大田市内各地で見られる。また、別紙で今ある校舎の建築年や劣化状況について記載したものがあるのでご覧いただきたい。</p>
武田教育長	<p>2点目の件について、私達は一人一人の子どもに合った魅力的な学びの場を作っていかなければならない。できれば多様にありそれを選んでいけるようなもの。すると、この素案は10年後20年後を見据えているので、大まかな枠は示しているものの、先程伝えた学びの場を魅力的にしていくには時代の流れがあまりにも急激なので、今年度からできることを来年度からできることを、年毎にできることをやっていこうと思っている。なぜならば、大田市には国立公園三瓶山を持つような自然豊かなエリアがあり、一方で世界遺産を持つ歴史文化のエリアがある。それぞれの地域で非常に豊かなふるさと教育も進められてきたので、再編案も見据えながらそれを活かした多様な、あるいは選択肢の多い取り組みができないかと考えている。</p> <p>例えば、小中一貫校のような小学校と中学校が併設している学校が既にあり、近くに同様の学校がある。その校舎の良さを使えないか。また、今は小さな学校で、将来的には統合を進めるが、最終的な案の中にも小さな学校が残っていくような選択肢ができたり、あるいはそこに行くまでの伏線として、小さな学校を他の学校から補って通えるような小規模の特認校を早めに作っておくこと、更には不登校や学校に行きにくい子に対し校区を緩やかにして、自分はその規模・あのエリアならいけるということがあれば、柔軟な校区を作っていくこと、校区については可能であれば来年度から進めていこうと思っている。</p> <p>また、大田市には国立三瓶青少年交流の家や、サヒメル、石見銀山資料館や、サンドミュージアムがあるなど、非常に教育施設が充実している。国立もあり県立もあり、山村留学もあり、そういうところが持っているプログラムをもっとみんなで共有していけないか。そのためには山村留学を含めて今の形がいいのか、地元がそこを何かの施設として宿泊し、そのプログラムを使っていけるような、四季折々の体験を準備していくとか。とりわけ国立三瓶青少年交流の家は今年大田市と提携した。この提携を結んだだけで終わらないこと、結んで次に何を準備していくかが私たちの責任だと思っている。</p> <p>それから、あすなる教室と言って、学校に行きにくい子たちが通っているが、子どもたちの中にはICTを活用して授業が受けられるようなことができないかなど考えている。それは全て成功するかどうかはわからないが、10年後を見据えてではなく、1年1年チャレンジしていくことだと私は考えている。</p>
意見交換に係る質疑応答	
委員長	<p>これからは時間の許す限り意見交換を行っていく。事務局からは今後のスケジュールや再編素案や資料など説明があったところだが、核になるのは再編素案のところ。今回はたくさんの資料をもらったところで、すぐ意見を出すのは難しいと思うので質問も受ける。お考えやご意見をいただきたい。</p>

委員	<p>資料4-1の中に素案作成の方向性とあるが、前提とする条件に“少人数学級や複式学級の解消”とある。もちろんこれは大切なことだと考えているが、資料を見るとあと10年後には小学校で400名近く子どもの数が減る。大田小1校分いなくなるのと同じ。そういうふうにもう少し先を見た時に、少人数学級や複式学級の解消だけでいいものかと感じた。例えば学校教育法施行規則の中で標準学級数は12学級以上となっており、小学校は単式学級ではなく複数学級が望ましいと読める。複数学級あるときには子どもたちのクラス替えがあったり、隣のクラスの教員と相談しながら教材研究であったり、高学年であれば教科担任制でより教材研究の時間も割いて、子どもたちに教える内容も教員の思いが伝わるようなこともできる。</p> <p>そうしたとき、前提とする条件はこれではなくもう少し工夫をする必要がある。例えば長久小は2クラスと単式学級がある。複数学級があると子どもたちがお互い切磋琢磨しながらやっていっていた。そのようなことを考えながら、前提とする条件をさらに踏み込んで考えていく必要がある。もちろん大田市は地域が広いので、当然大きい学校に通おうと思えば時間がかかる。全ての学校は無理だと思うが、可能な学校はそういうふうにしていく必要があるのではと感じた。</p> <p>また、可能であれば現在バスで通っている子どもたちが、どのくらいの時間をかけて通っているのかがわかる資料が欲しい。私の記憶であれば、井田の子どもたちが西中に行くのに一番時間がかかるのではないかと考えているが、今後の話し合いの中で、スクールバスを使わないと通うのが難しいと思うので、子どもたちの通学の時間を比較できると良い。</p>
委員長	<p>次回の資料についてお話があった。事務局のほうから素案にとらわれないで考えてもらって結構という話をされていたが、今日の時点で事務局からお答えすることがあればお願いします。</p>
森部長	<p>複数学級があったらいいのではというご意見だったかと思う。資料2に戻ってもらうと、平成21年度～平成28年度の学校再編実施計画の基本的な考えの中で“小学校の複数学級を目標とする”という記述があるので、この文言を生かし踏襲する形でいいと思っている。通学時間については、第2回のところでお示しする。</p>
委員	<p>今回令和3年2月に作成された案の見直しということで、その中で著しい人口の減少、施設の劣化があるということだが、小学校は原則と統合しないというところからわずか2年でこれほど統合が進められた素案を作られて、正直自分としてはショックを受けた。私も人口減少は肌で感じているし、これからも加速していくことが見込まれている。その中で、令和3年2月に原則再編しないと決めた中でここまでするという事は、統合ありきだったのではないのかということも感じてしまった。ただ、子どもの多様な学びについてもお話いただいたが、財政的なことも考えると統合は必要だとは感じている。</p> <p>しかし、統合することにより、地域と保護者の理解の差というのは埋まらない難しい問題だと思っている。教育長が言われたように、小さい学校を残していく策はすぐにもやっていかないといけないというところ。まず統合を考えなくても必要な学校を残していける施策もこの中で作っていただきたいと思っている。ここまで予防策や修繕をいろんな小学校でやられてきたのか。校舎は傷んでいるが、ずっと手をつけずにやってきてその結果著しい劣化なので統合しなければというふうになると、選択肢がないじゃないかと思う。子どもがいなくなってくるところにそこまでお金をかけられないとは思いますが、どういった手立てをされてきた上でこのような著しい劣化というふうに判断されたのかということもしっかり説明いただきたい。</p>

	<p>統合した後、持続可能な地域づくりは難しくなってくると思うが、子どもの育ち・学びというところを考える上では致し方ないところではあると自分に言い聞かせるところもある。だが、大田モデルとして何かの可能性を試していくということでも考えていただきたいと思っている。</p>
縄課長	<p>まず、今回お示しさせていただいた3つの素案というのは、あくまで議論のスタートで、この3つから選択してもらうわけではない。教育委員会が財政的なことや効率的なこと、子どもを一定程度集約することを睨みながらお示しさせていただいた素案なので、ここから議論をして全く別の素案が出来上がるということは我々もあっていいと思っている。その中には先程教育長が申し上げたとおり、校区を少し柔軟に考えて、小規模校でも維持していくという選択肢もあると思っている。そこが学ぶ機会・選択肢の多様化であると思っている。</p> <p>それから、校舎施設の劣化について申し上げますと、現在の計画では、策定時の校舎は築30年程度であり、耐震改修工事を行っていたということで施設面に関して重きをおいてこなかったというのが一つ現状としてある。これはお詫びするしかない。併せて、大田市として施設を維持していくこと自体あまり力をかけてこなかったというのも事実。ただ、施設が何らかの形で修繕が必要になった場合はできるだけ速やかに対応しながらやってきたが、計画的なメンテナンスが不十分で今の状態になってしまった。そのことに関してはお詫びするしかない。</p>
武田教育長	<p>今課長が申し上げたとおり、今まで何をしていたのかと問われると私たちも頭を下げるしかない。ただ、これは現実として受け入れなければならないと考えた場合、早急に子どもの安心安全を確保しなければならないので緊急の避難をする選択となった。</p> <p>また、21校ある学校に修繕料を1000万円かけるとなると、1校につき50万円しか使えない。そうすると、学校数を制限して少しでも修繕費を有効につかっていくという考え方もある。そしてまた、そのお金の中でどう今までにない教育を展開していくか。それはアイデアしかないと思っている。この話は大人たちがどうチャレンジし、どう実現していくかという挑戦だと思っている。もちろんこれまでのことはいろいろあって、今言われても謝るしかないのだが、次考えていくアイデアでそれをカバーしていきたい。そのために全力を捧げたいと思っている。</p>
委員	<p>私は移住して2年目に池田小学校の5・6年生の授業で「池田の農業の過去・現在・未来」というテーマでアドバイザーとして関わらせてもらった。複式学級を減らすとか、数やお金の議論を言い始めるとキリがないところではあるが、私自身初めて複式学級の子どもたちに関わり、すごく生き生きとしていて、こういう学びができるのは素晴らしいと感じた。それはある意味価値かもしれないので、そのあたりの可能性も見据えて方向性を見出していくということは大切だと思う。</p> <p>素案1・2・3のように、この中から数を減らしていきましょうということだけが皆さんセンセーショナルに受け止めがちだと思う。私自身教育にどっぷり関わってきたわけではないが、教育長がお話されたように、小さなチャレンジをし続けていく上で、こういう選択を将来やっていきたいのでみなさんと議論しましょうということだろうと思う。今大人たちがどんなことを考えているのかは、子どもたちが大人になった時に大田の教育はどうだったかと考える大事なメッセージになると思っているので、もちろんどんなパターンがあり、学校施設が大変なことになっており、加えて教員不足、しかしお金はないという中で、大田の教育はどんなところが魅力的で、どんなものが売りであり、ここで子育てしたいなという世帯や移住者を増やすとか、そのようなメッセージを中に取り込んでほしいと思っている。</p>

	<p>また、検討委員会に声をかけていただいたときにキーワードになると思ったのが農業。昨日農水省に行った際、小学校で農業科をやっておりおもしろそうだという話をいただいた。そういったことなども、具体的に検討する中でメニューとして考えてはどうかと感じた。</p> <p>それから、池田小学校が今年3月で閉校になったが、学校の活用がどうなっていくかわからない状況。これは教育と直接関係ないと思うが、その学校が空いてくるとそこをどうしていくか、それはまちづくりをどうしていくかというところと表裏一体だと思っている。そのあたりは次の計画を作る中で、地域と議論ができるような形をメッセージとして取り込んでもらい、地域の方にも学校がノスタルジックな部分だけではなくこれからどうしていくかということも含めて検討していただくような機運が必要だと、池田の現状を見て感じている。とはいえこれから統廃合は進んでいくと感ずるので、その時にそれはそれ、これはこれではなく、大田市全体として教育・暮らし・地域というところを一体的に議論ができるような方向性を次の計画で位置づけてもらいたいと思っている。</p>
委員	<p>実は私自身複式学級の経験があり、現在は通った小学校もなくなっているが、そういう経験も踏まえて全体の資料を見させていただいた。よりよい教育環境や、魅力ある教育とあるが、具体的にこれからの子どもたちにどのような教育環境が必要なのか、現在それが大田の小・中学校でどれだけ提供されているかが分析されていないような気がする。なので、どうしても数の議論になってしまっている。今、実際に日本の中では理系文系関係なく、データサイエンスや情報技術を活用することが求められている。そういった中でいくと、島根はそのような教育が弱い。</p> <p>もう一つ言うと、学力ということにぶつかるが、将来学び続けるたり考え続けるためには体力が必要。昔は成績が良い子と運動ができる子は別だったが、今は両方が求められている。逆に言うと大田市が求めるビジョンを明確にして、それを実施するために学校施設としてどういう機能が必要なのか。先生方が学ぶというOJTが全くできないということだったが、もっとデジタルを使いながら、教育のトランスフォーメーションを起こさないと、今までどおり数で合併しても破綻していくと思う。今回の議論の中で目標・ビジョンを明確にして、その中で状況によって変化があるとは思いますが、それを実現するための施設であったり、学校に置く機能であったりを明確にしていくことが必要。課外活動を学校で行わずに地域に開いていくという流れがあるが、セキュリティーの関係で学校施設が使えないこともある。今の施設ではできないことを含め、将来のビジョンの中でどういう施設がいいかというのをまずまとめる。その中で、今できることを整備計画として統合も併せて考えていくほうが良いと感じた。</p> <p>実際の事例で行くと、自分の息子が通った中学が来年閉校になるが、そこは一時期子どもが増えるということで中学校が開校したが、将来的には福祉施設に転換するという前提で建てられた学校。地域の現状を見て将来どうするかというのを踏まえた上で、整備のあり方を考えたほうが良いと感じた。</p>
委員長	<p>発言にあった大田市としてのビジョンそれに基づいて考えていく必要があるかと感じました。</p>
委員	<p>自分のこととして考えさせられながら拝聴した。島根県の県立学校も非常に厳しい状況だが、その中でも大きな二つの動きがあると思っており、大田市もそうなるのではないか思っているのは、まずご承知のように魅力化ということ。1・2クラスの規模である小さい学校が、学校の魅力を出して、地元出身の子が地元で地域の方々と一緒になって活動をする。そういう魅力のある活動をするから小さい学校が残るといふのと一方で、</p>

	<p>この間の江津高校と江津工業高校のニュースのように、ある程度のスケールメリットはやはり必要であり、大規模校は必要と考える。そうすると、池田を例えに挙げると、小さい学校を残すのではなくて、地域と学校が一緒になって農業とするというところで一つの特徴を作れば、学校の存在意義もあり、地域と学校と子どもたちがワンセットで魅力が出てくる。ただ、学校は学校、地域は地域で、学校に構う人もいなくて高齢化がすごく進んでしまったという地域がもしあれば、そこで学校を残すのはなかなか厳しいのではと思う。そういうところは市が把握された上で、ここはこういう魅力があるから小さい学校でも必要、でもある程度複数のクラスがあって活気があるという大きな意味でのスケールメリットも必要、というのも特色づけて進んでいくと両方の魅力が出てきて大田の教育が充実して魅力あるものになると思いつつ聞いていた。</p> <p>統合してできる大きな学校は必要。その中で小さい学校を残す意義というのは、地区と学校がどれだけ一体になって魅力を発信できれば、外部からそこに人が来るだろう。そういう小さい学校の残し方というのと両方がうまく存在すると良いと思う。財政的な関係である程度少なくしていくのはしょうがないと思うが、ただ形として残すのではなく、文化として学校とまちが一緒になって残らないといけない、そういう議論が進んでいき、これを通してそれぞれの学校や地区の魅力が出てくるというのはいいことだと思う。</p>
武田教育長	<p>今の発言はもっともだと思っている。私たちも何回も言うように、この案は決定ではなく、たたき台として地域と協議していきたい。大田市民の皆さんと話し合っていきたい。そしてこの委員の皆さんの意見を聞きたいと思っている。</p> <p>地域においては、様々な地域の力や年齢構成等々変わってきている。これまでは地域の皆さんの協力があるさと教育が充実していたが、この後これが本当に続くかと言うとそうではない。そのため、地域を今までの枠で考えないで、少し大きなエリアで地域の人たちが手を繋いで地域力を上げていくべきではないか。その地域力を持ってどのエリアに学校を置いて、どういう学校を作っていこうかと、そういう検討をみんなですないかと提案している。それはきっとわが町わが村で、どういうまちづくりをしていくかに繋がっていくものだと思っている。ぜひともお力添えいただきたい。</p>
加藤委員長	<p>今日はたくさんの資料をいただいたのでまたじっくりお読みいただきご意見いただければと思っている。本日のところでの意見交換はこれで終了させていただく。今日いただいた意見に基づいて事務局で整理していただき、次回の検討委員会で新たな提案をいただきたい。</p>

以上をもって、第1回検討委員会を終了した。